

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年10月25日】第100号



中等部にお邪魔しました

10月19日(火)、本校の子どもたちが、中等部のグラウンドにお邪魔しました。中等部の1年生2グループ、2年生5クラス、3年生5クラスがそれぞれ「よさこい」の演舞発表会・撮影会をすることで、中等部からご招待を受けたためです。グラウンドには農大稲花小の子どもたちが観覧する場所も設けていただくなど、親切な対応をしていただきました。ちょっと寒い日でしたが、子どもたちも迫力ある演舞に見入っていました。何年か先に、中等部に進学できた子どもたちも、この「よさこい」の仲間入りができるとうれいですね。

また、10月20日(水)には先週の1年2組に続き、1年1組が東京農業大学厚木キャンパスに伺い、校外学習を行いました。農大稲花小の子どもたちは、学校法人東京農業大学のたくさんの方々に見守られ、応援されて育っています。中等部の中学生、大学の学生さんや先生にも憧れの眼差しを向ける子どもたちです。

東京農業大学厚木キャンパス：<https://www.nodai.ac.jp/campus/map/atsugi/>

専門家に習うプログラミング

10月12日(火)に行われた3年生の授業に続き、21日(木)には、東京情報大学総合情報学科松下孝太郎教授の指導による2年生を対象としたプログラミングの授業が行われました。2年生も3年生も2回目の授業は、松下先生のご著書を利用して作っていただいた教案に基づいて、担任が指導することとしています。また、来年度も松下先生のご指導をお願いする予定です。

校長は一作年、教頭は昨年の年度末に、5日間のプログラミング合宿研修に参加し、App. Inventor, Blockly, Micro bit から初めて、Pythonの基礎などに触れる機会がありました。その際、プログラミングとはどういうものを学んだだけでなく、プログラミング学習と英語学習の親和性についても気づきがあったのを思い出します。



プログラミングに興味をもつ子どもには“腕”を上げてほしいと願うとともに、どの子どもにもまずプログラミングの基になる考え方をしっかりと身に付けてほしいと思います。



松下教授の著書を用いてのプログラミング授業

東京情報大学 総合情報学科 松下孝太郎教授

http://www.tuis.ac.jp/teacher/gakubu_informatics/ma/matsushita-k/

<http://www.rsch.tuis.ac.jp/~matusita/>

日々の学習を大切に

本校では校外学習や、専門家をゲストティーチャーにお招きしての稲花タイムなどにおいて、特色ある学びを展開しています。入学式の翌日から毎日英語の授業があったり、給食が毎日食育の機会になっていたり、農大稲花小らしさは様々なところで見られます。しかし、体験を体験だけに終わらせず、体験を理解する力、体験と学習を結びつけ体験により学習を定着させる力を、子どもたちは身に付けなくてはなりません。このためには、国語、算数といった通常の授業が、まず大切であるのは言うまでもありません。忘れ物などをしないきちんとした生活習慣をもって主体的に学ぶこと、興味関心をもって真剣に授業に取り組む姿勢、よく考え自分の意見を発信するだけでなく、友だちの考えもしっかり聞こうとする力などを、本校では教育指標「10の能力」として示しています。学習に適した季節、そして2学期の後半を迎え、改めて日々の学習の大切さを、子どもたちに伝えてまいります。

入学試験事前面接も最終週

10月11日(月)から始まった2022年度入学試験のための事前面接。10月28日(木)が最終日となります。昨年以上の志願者があり、毎日、たくさんのお子様そして保護者の方と面接をさせていただいていますが、多くの私立小学校の中から、本校を選んでくださったことに感謝する気持ちでいっぱいです。本校の在校生や保護者の皆様にも、本校受験時の緊張、そして合格時の喜びを忘れずにいてほしいと願っています。お子様が小学生になっても、保護者の皆様の役割はまだまだ大きいものがあります。引き続き、丁寧な子育てを続けていただくことを期待しています。

校長 夏秋 啓子